玉燕小稿

五

川宮御本

源氏物語玉の小櫛 五の巻

胡蝶巻

いづれもこの巻の詞のかゝり　二のまき　此物語をよむに作り物語として今世のいとゆゑある言ざまをしるべきなり　いづれも好色のかゝりをもとして作る物語のまきゝといつるなり　此段一部のかゝれり伊勢集にもみづからの人をうへたるあだびをきて芳和尚のごといひなせるまて　こゝ同じ　注参用の説ども多かれし

なほ光よりの引続きとは　源氏物語入内してといつるまゝ　ゝ遠へ　なほ光のよりはいとゝんがごとし

光源氏物語玉の小櫛　五　一

帝國文庫

ふるふ。さハきはじきるゝ〳〵ゆひてゆきゞやもるゝこの伺し。
人のゐをうゞかゝ日 ほふ下らふの文えゝ〳〵といふハいゞ。えハ上らふ下ら
ふ形べゝふかゝるべし。
行つゝ〳〵日 ゐゝるゝ〳〵病あゝ洗いつり。拭きふ。病のきえを厚〳〵といふり
やゝいつるハ拙侍るてハうれゝるゞ。ゝゞての伺ゝ代りゝらて用ふるゝとの
ゝるゝゝゝ行ゝバ拙侍るてハ拙侍ゝ用ひゝる侍をもていふべきし。拭き
ゝハ。警沖の保法拭き洗いつり。下宮同じ。
あいゝ〳〵三のゐゝ 仆河物も形く美くゝゐり。そをゝゝぐ〳〵えゝ〳〵合をし。
かむゝふるふ伺ゝ〳〵ふゝえまへもゝ〳〵かゝをふ拙ゝるゝし。ゝゝとそ
のゝと中。おのゞ身ふかゝらぬ人ゝまでも伺ゝいふゝとなゝふ目をゝゞむ

ふし。ほふ。ゐゝ。ゝし。あゞられゝ〳〵しゝ形ゞいつる。皆かゝつゞ。
まゞ曲き日 拭きふ日ゝゞゝゝ時。まゞ曲〳〵ゝゝゝゞきゝゝうゝゝゝゝるべきふ
やゝいつるゞゝ〳〵ゝゝ。ゝゝて人ゝ目をゝゞめゝ〳〵ふく。ゝれまゞ曲きし。
かゝ伺ゝてのおゝりふゝゝ日 かゝふゝゝゝよゝみゝて。ゝゝゝゝゝゝゝもゝべし。かゝ伺
ゝゝゝゝゝゝゝ

よゝりて日 よゝりて人そのこゝろし人は上よりてふかふ
てハ下ゆゑ物しるひ給ひ給ひ給

此俗ふちひくハ（口のひく）　指さふいつるごゝ。　黍稷ゝを引きとゝ。
ゝふ物をゝ。
大ゝとはやむゝしき（日）　あゝゝとはゝ。俗ふ「ゝゝ」はゝいふゝし。
ちゞゝよりあゝしゝべての（日）　山ふ一本ふ毋ゝとゝゝ。ゝとゝゝゝゝ。さ
らでハゝゝゝゝゝ。
ゝゝ物く（ゝ）ゝゝまゝゝる紙ゝひてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。海よ。
無引　無破　あゝゝをゝ絶ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
やゝゝゝゝ笹ゝひ（日）　文字と高へ退らゝゝゝゝ。翌日もゝのゝゝ。ふ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝふ。板のゝ表紙改ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝ。俗ふゝゝゝゝゝ異し。

ゝゝゝゝゝ（日）　山羽々ゝゝゝ。今ゝ世ゝ俗ゝふ。毒ふ思ふゝいふゝゝふいへ
ゝ。又ゝふゝゝゝゝ葉ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

釋日本紀ニハ、神代須佐之男命の所事よりおこれり。然
るに、詞まぎれ、ことば、衣のたもとに、様さんしあるのみにて
あるべし。

こゝろ　こゝろ　こゝろ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

目しるものをうるはたゝびゝ[illegible]又まゞやきをいつるはもゝなつゞ[illegible]

しゆやきハ侍ふぐるきといふをもて目つきはしやゝぶふ[illegible]病ゝ

のさゝめし。河墮窳[illegible]ともうれをゞ。

いまゝゝふゝと曰 侍ふ[illegible]ハ行くせうぞといふをし。まゞるゝいつるゝて

ゝるべし。侍ふ行とをそゝ[illegible]の病とゝをきんゝといつるハかしをゞり。

てゞるまゝせんゞなゞ曰 續日本後紀ふ。兼和六年六月庚戌朔己

卯。女御従四位下藤原朝臣澤子卒。故紀伊守従五位下總継之女也。天皇納之。誕三皇子一皇女也。寵愛之隆。獨冠後宮。俄病而困篤。載之小車出自禁中。絶到里第。便絶矣。天皇聞之哀悼。遣中使贈従三位也。とゝりの桐壺更衣のすゝれう

接て[illegible]ゝし。[illegible]ゝ多し。

うちとゝゝハえゆゝやらゞ曰 ゆゝハ記てゆゝし。[illegible]次の[illegible]

ゝるべし。侍ふ[illegible]へえゆゝれゞとゝしといつるハゑゞゝし。

ゝいゝまほしきハ曰 [illegible]ふいつるゞゝ。[illegible]をかゝゝ。侍ゝ[illegible]の

ゝゝハゞゝゝゝとゝいつるゝ孫のゝをて。ゝをゝゝハ[illegible]し。

れむゝのゝ侍ゝゆゝがりて ハのゝ やうれのゝハ胸のゝゆゝがりて他の

[illegible]

[illegible]

いふぢつとのことなし。ぢつとは即ひつとめ祝まるなん。れむものふるごり

[illegible]ぢつとしもゆるぶなし。ほふ物といふ日ごといひ又集都

[illegible]るいやしきひごとし。

伝役のゆきうふ曰 伝海ふ交加(ユキカフ)とつるさうふるなべ。

乗あううちるるう曰 こと八文元の里ちくれいつる伯を伝役の実うる

[illegible]

[illegible]へるて曰 伝うふ。ちりつひきゝかけ美ゝるといふこと。

かくてもいゝたらんど曰 かゝてもハ伝毋文元ハうせ移ひてものこと。

なきこゞ也 曰 こゞ也ハ。蟹の鋏の伯をもていつるふて。文のつやなり。

此ゝどひ美ゝ。人を伝ゝべゝ。

むすきたるゝ波ゝ。ゝひるるとれゝ。曰 こと八いまゞ蕣ゝ出ゝ池

ざるさ波ふいゝ也ゝうゝ。伝ふてがゝてハかくの弱ひつとゞゝし。

三伝のゝゝぬ九の弱ゝ 弄花田流ゝるゞふ。みゝ乃ゝくゝぬゝゝよむべきよ

ゝ。伝ゝゝ也ゝゝ。三伝を紀いふゝ。もゝゝうゝ。ゝ也ゝゝ。これゝ

三伝のゝゝぬゝゝ出ゝ絶ゞ。三伝ゝ言ふて。ゝんぬゝ。佛んゞ。物

伝の伯つきゝ。ゝ。

きゝなゝう。曰 伝海ふ無人(スゲナシ)望日本紀。猶き云。日本紀ふ此云ゝ。今

云。ゝゝ日本紀ゝ。ゝ(リ)ゝ。此字ゝゝふ。ゝ。

人の女房曰　えべてうえとは、事ぶ[illegible]あるうち近きまふいつて、人つが
ゑうへまやづへまごめごとし、うゑ[illegible]事ぶに[illegible]ちうまる
女房ぶいつて。
えとえとに十ばかり　えとハ又のうえに、又えくもうりといふえとの組し。
そも秋ふかりて、たうとハまぐ暑くて、涼しにがうちよりて、
係りつゆり涼しく[illegible]ばりてこ[illegible]ときばかりてえや又えとえ[illegible]
もつるえとし、今もまるえとうる和し、えるかふ世組をかまぐ八月でう
ふのくいつり、ふぶつくべし。凡情あぐふえくとかふ見えとうるもはぐ
えとえ、たうとハ敬つえて孤ばかりし、又えとえ孤まもしえるる女えに
系とつたり。結きふ茅系の膚（ハダサシ）えを引ていつるハ、ぐてえし、うゑ

膚えをとハ別なるえや。
いつぐしまえをせ結ふて曰　結ふてのふもぐ、一本ふ結きを用ゆだし、を
べえ結ひてえいつべき沢。結ふてえいつふ結きを後の中ふも結ふ西し
えぐる。後ふ結いひぐる結ふ沢えを耳結ふてる人の家を呼ふ。ふを
じハ係える物とえしう。皆結ひてを書くよしべきえし。
たう結くまいづるえ結ふ紫も曰　結えふなんでを結いえ沢ちうえい
ふ間をえいつふえも。倩ふ結ふえしえいつハえう。
まうでつきて曰　ゆきつきてえし。えべて禁中より他所へゆくをバまうで
出えいつる例し。
みるえおもてふ十二のひえ　えべて人の家も南向を正しえる石う。南

おもては金屏風正面とさるかゝ〻ゑ〻しを面向の表ばかりで面おし
下の屏風ハ行ゝぎれども方角ハ行方ふされ正面のそゝ〻をと面おもて
といひまゝつるし面〻は方角おもてそいつるもねじ・抽屋の中ふ
多くるおとし・ん拍おゝべし・
ところとふとぐまぬおびつゝ形さを十二のゝ〻こゝハ結ふとぐまぬが
おびつゝ形きをとゝきもんをかもじを為し・きをさふ結ふ形ゝべし・
布はまゝ多てハ結ふ〻ぐ或おふ・おびつゝ形ふ思ひやとつゝと返ゝる
文ゝといつるハゝるし・さてハつゝといふ用ふ形し・さてもゝるとふ
き・更衣の毋ゝ結ふ布し・差ふ置ふおゝまして・袖毋一人しもとぐ
みゝ・帯はもゝるふをえぐゝ結ふるし・文衣ゝ結ふとい

つる結ふをむぐゝし・さてハおびつゝ形きゝといふ用ふ形ふ
むゝ・はゝ形ゝふをゝ〻へゝ・ゝ・ゝ・

いつるとゞひし。花ちふ。雪ゆむもちぶを。後とかるハ。ちつ。

かゝ〳〵うえをり行る形。どうち〳〵ふ品ゆ。つゝをそし。後へ 十三日

品行つゝゆゝとハ。ゑ衣毋の品へゝゆゝゆて。上の令ちゝ行ゝ。ゑをり

行るゝいふゆで。その品つゝゆゝし。さてゝられゝみづゝ〳〵行ゝをいつ倍ゝれ

で。品行ふつゝゆゝとゝをべきふ品行へるゝ行ゝハ。字〳〵。後し。さべゝ〳〵品行へ

氣とハ。他のゝ人をゝふゝゝていふゝゝ。ゝづゝ〳〵行ゝをいゆゝハ。品行ふる

といふてゝ形ゝを。後。ゝ行ゝ人。ゝ氣。行の。ゝちづ。ゝを。ゝ化。ゆ人。ゝで。なゆざ

品ふゝで。品ゝ。ゝのゝ。ゝ品ゝかゝ〳〵。後ゝし。此後り。ゝ〳〵ふゝ〳〵ゝり。

ゝゝゝおゝゝのゝごゝりふゝゝ。 日 ゝゝより令婦が行し。地よりいふゝり

ゝ〳〵。ゝて。ゝゝゝハ。ゝ〳〵ゝかゝりて。完ゝ。ゝゝゝし。

ゝ品ゝ。ゝ。ゝ。

ゐもぐむ〜はちく〜はたらくてもと 日 はてとハ考ふいふてとのこと
ゐ〜ゐ〜ゐ〜

もむろとおくとゝいそぎまつぶ〜ゝきそふ文云の物はきこゝやうふも多〜
をなり給ハぬもかやうゝ〜はかゝしとゝ多と解釋〜ゝるがごと
はゝかりは相傳きゝ世給ふ物かりとゝいつるも事はすぐあれうのご
もゝぐるゝよゝ解釋〜ゝる文のそぢめしなはさし。
長恨歌は絵亭子院のうせ給ひて　十六のゝ　此絵を亭子院のは
みぐゝゝ出給つるやうふ世もどもさふそ〜ゝ絵所ふ作せてかゝ
せ給つるしまて上ふ女房四人さふ〜ゝ世給ひて此相傳きゝ世給ふ
ゝいつるハ給ちゝ此書相傳給ちゝ世給ふ此相傳せゝ世給ふしさ
ぶそのきぢをぞまゝ〜ぶゝいつるきぢそちゝ上の此相傳きゝ世給ふ
ゝゝ此ゝゝゝゝ此ゝ所ゝ此ゝ所ゝ此ゝ所

かくてとおのづから　十七のゑ　かくてもハ文武ハなくなりまてもなり。
おのづからハさるべきついでもとつふへくまり。ゑまえへハかくらべ。
なきくのさこうう　日　わまくをもはかるはまくらぶきを世話
ふるどなるかくゆゑ世おぐくをゆること。よくなるこし。
かくゑんしうるようそひそうるくうそ　日　まべてうるかくといふこハ古
書ゆてハ美麗のこと物をぞと。抱ゆるぐふいつるハぐぐ美麗のこまハあ
らで。俗ふきつうてうくいとつふこと。みだまでぐ。ぐくきこふいつりうて
こ。楊貴妃の毒をきるようそひハ。ゆりきつくてかくくて。ゆをや
ふをゆくくぎりをつるし。
なつくう　日　まべくゆ。なつくといふ。ゆをくくくうくくるまてやを
らふまくくむつまくくゆるくまし。俗ふいつふまとハやゝ異し。
らくふまくくくくくゆ　日　ゆ。俗ふあいらくきとふまし。まてついで
ふいくむ。らくくくくく

いみしきものとなり。

いとおしもちかぐ〳〵さきに日 拾遺ふ。河最押立才日本紀。今撰。日

本紀ふ。才は本紀かぐ〳〵はら見給ぐかくつぎ〳〵さ〳〵き。

し。今は本ぐ〳〵しなたの本はんとはこしぐ。しゆぐこんぶの

さかりさかぐのんるべし。さいつり世俗乃めし。今世はさらしも。

かぐもし。世はさるなどいふうぐらし。

世俗 世はさらへもさ 日 いうでもむ〳〵んとは世は上まてぶふ深り

さ〳〵月野ばまて清常世は命ぐふさ。月新のいぐ清むさ

そ源ふさ〳〵先と。月のさもむさ世いひて。俗をさよまり。さて文

夜の世は清をおぐし。先やるさいふ俗さ。ひぐさし。

うさかぐひ 十九の巻〳〵 或抄云。陪膳の女房はさぐをさとさ〳〵いふなり。

世俗さ皆。いと後世は飯さて。さは飯さはくれぐ。さのやうはた

本ふは世はものさかぐ。飯ぐもひさは世〳〵。さ本ふは世はものぐ

さ。いとさるふぐ〳〵先〳〵さぐ〳〵いふて。さるべし。さ本ふのを常

の世俗さ〳〵いふも。まぐ〳〵はし。

世はさふ世ふさるさをば 日 をばのをもぐいぐ。ふは〳〵さべき俗さ。

〳〵いぐ〳〵世 さ 日 さ〳〵もさ。さみ〳〵〳〵といひをを。さ俗さてみを

いと〳〵ひさる何さ。さみ〳〵〳〵とは。舌〳〵さて何さて世ぐいふ

みさて。世かぐ〳〵。構さふふゆぐ先〳〵やうはさ。万葉ふ。田轉 メミ ぐ書

て。さかぐ見ぐ世。さ〳〵さ〳〵さぐ〳〵先〳〵。 俗俗かさ〳〵。

いとゞ此君はあるべし　日　久しくこそ侍つれ。月日へてこそまゐりあふよ
いよいようらゝかなりゆくすゑの御ありさまなどいとゞしきまでいとゞとこそ思ひ給へ
べきよしなどいふ程に。
中〳〵いとやふ〳〵　源氏の君は。坊ふたりをもうけ給へるおやふくおぼし
ゆるさぬ。はつかしうもあるべかり。
かゞやかしうそなたなる筋と　日　帝の。源氏の君をさばかりおぼし　給せども。うゞき
給へて。坊をはえ立給はざりつるよりは。世人やはらぎ。
はゞかるべし　此のゆゑ　なべて女御更衣にもたちまさりたまへる。はゞ世人なびき
てうやまひ給へり。
おやうどもまゐり給ふ　日　延喜のころ高麗ハ渤海国より使をして。

高麗中ごろ。渤海もうるはしきおもむきにて。国にて。
いひをれるまゝ。ふるまひしかしこき。寛弘八年に。高麗ハ渤海
の使のうち。沈光。文徳実録に。ふるゝ麗國遣使。紀末。
時ふるの大使。橘活友の弱冠にて。おうぢうきて。骨法非常。
子孫大貴と相せしかば。そゝのかして。嵯峨皇太后を生奉りき。
ふたりおやとなりて。うゝ又をおもるべしふたり　日
源氏ふたりをもうけ給へる。父子。右上天皇はうまれ給へる。
うゞ光うり帝王の相おはせしかば。帝位よハのゞ
王位をうゞ。帝王のおもゝをおぼしかけ。
しかるべし。こゝろよりて今此おとゝ。その闕るゝ。

くて、いとゝかゝるぶきつゝ、ものひめぐゝきふ、かゝる事ゝふまうけ給
ひて、ハみぐるしうわふるゝ形ぐゝとやわらん、又事ゝ乃おほかゝしわきて
面白きハ、かゝくハ又指政宮白形ぐゝ形り給ふべき相うそ也へど
も、事ゝ也ものおもれで、指宮ふしてハ、をおうれをぞ、ゆゑべゝしくいとし、
みぐるしうわふるゝといふハ、事ゝ也ものおもて、顔ゝる所給のあるを、疑
ひて、かゝるゝやわらんといふし、給ゝを也やうみぐるしうわふべ
きおのゝ事ゝやうふ沒ゝ、ゝるハ得し、又ものおもゆふべゝを、補佐の人ゝ
ゝて、おゝまさバ、みぐるしうまつふるおゝをゝゆひて、おゝゝるべゝとゝ人ゝ
も得し、さてハ宗祇繁沖ものぐもいつゝるゝ、又ゝいつゝるゝふうれを
ぞ、ゝるハ花ゝの花ぞよろゝかりゝる。

いゝ、ゝ花おうり物を　ゝ二の巻　源氏物語　鴻臚館　ゝり給ふ時乃

ゝ人の遣物ゝり。

かゝ、こきたんゝりやゝゝゝ沒おゝきて　ゝ三の巻

みりぐるのたんゝり、世たゝ沒、ゝ新を、ふも物さバ、人の髭ひゝ出ゝ

て、かゝりてたゝ、ゝ、ゝかゝ、ゝ考へゝつゝゝをやゝゝゝゝと

ゝゝつゝゝ、かゝ、ゝ、ゝ事ゝゝあゝハ、ゝも、ゝひゝき、んのゝ、ゝぞゝゝ、ゝ

ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝふゝ、ゝゝゝゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

ゐ〳〵おぼせるも。細流ふ。和國の相人もがやうふかはしとつたるハ。ゐ
ゐ。うれを相人よんを給へるよう〳〵ふそつたゝび。も〳〵宮ちおゝ人のこゝ〳〵
てハかゝ〳〵こきたんうり〳〵といへるも。風ゐ。おゝ〳〵ゐりふゐゐ〳〵いへるもか
ゐりぼ。夢はれんうり。かむ人ゐふことをやゐやおゝ〳〵ゐといへるハ。おゐまち
おゝ人のゐをゐゐ取ゐるなし。さて（サウ）おゝ〳〵ふう。おゐきて。そゐといへるし。
きはゐゐふ　日　おきふ。毎際し。ごの家ゐゐるべ〳〵といへるハ。むゐてし。さてハ
きゐん〳〵いへゐ〳〵ゐゐ。ゐゐ際殊し。おゐゐ。ゐゐ（ム）べ〳〵。
内侍のすけ　宮ちゐ　上ふゆぎひの今帰が。内侍のすけのゐし給ひ
〳〵いへゐ〳〵。日人〳〵るべきゐ。
三代（ミヨ）のみやだゐ〳〵　日　河海ふ。此先帝ハ相當（ニ）光孝天皇ニ。典侍

詞ゐも。三代のゐやづゐへ〳〵ゐゐり。光孝ゐ多ゐ。醍醐〳〵ゐるべきゐ〳〵わ
ゐ。乗花細流ふ。さて三代ゐ〳〵ゐゐ。ゐ〳〵ゐ〳〵いゐも
〳〵ゐゐゐ〳〵ゐゐ。ゐ〳〵ゐ〳〵ゐゐ。ゐ〳〵ゐ〳〵ゐゐ。三代〳〵ハいゐゐ
いゐも。河海ふ。ゐふ。し。光孝ゐ。光孝ゐ。ふ。ゐ（アテ）ゐ。ゐるべ〳〵。
うきゐゐて　ゐのひ〳〵　ゐ。ゐ〳〵ゐ〳〵ひて。ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵

きべて。ゆ〜兼るゆえつゝ。彩〜とハいえぬ定まり好きバ。ちゃくハまぎる
くハ〜くまきんを。後ふかく彩何づきの格も。うれ乱も侍まる芸ふる
ゆえハ。行ん彩く。字〜侍まるし。此乱ゑ〜。んをつくべ〜。
およ彩く 日 光くふおゆ〜ゆえ何ゆえいづもも〜。彩の彩と注
ゆ〜まて。ゆまも。ゆゆゆくんれて。みづ〜ゆ文ぐふも。ゆゆふふ
ゑんまで。ゆで彩のかくゆふゆのくふゆゆつゝ。此ゑハ。他ふ対へゆ
ゆ〜ゆるゆゆる時ふつゆふ。ゑふて。ゆる〜へでゆまよりハゆまゆ。
こよ彩〜まゆゆわり彩どやゆうふいひて。ゆゆべていゆ〜かりまゆゆゆし。
ゆまバ侍ゆふかく〜べつふゆいゆふ行くまゆゆ〜ハ歳蚕の多り彩
ゑて後をいゆぐまゆり彩ゆ〜ゆ彩とゆ〜ぶまバゆりて。夢の

けんかく〜べつふおが〜ゆぐまやゆし〜いつゆし。此何みゑけゆを
あて見べ〜。ゆゆかゆ〜べゆる彩の。ゆ〜ゆふゆまゆがゆゆ。彩ゆ
もゆまど。よ〜見まバ。ゆまもゆ〜べゆゆ彩ゆゆし。何海ふ。無ヨ
此世 無越ヨ 閑雅ヨ ゆどゆる。みゑ乱ゆ〜し。結きふゆ彩ゆ好きゆ
ゆりといゆるも。ゆ〜〜び。ゆまべてもゆ〜ゆり。此何のゆゆひ〜ゆゆを
見つまゆゆる人ゆ。
なづさひ 日 何海ふ。昵近ナヅサヒ ゆまもゆつぶゆもゆゆる。ゆ何彩伝文ゆ見ん
え〜ゆゆハ。みゑけゆゆし。彩紫ふ彩ふゆ彩ゆ。彩ゆ何ゆ彩ゆ〜見ゆ
ゆゆゆハ。ゆ〜〜異コトし。ゆゆひまゆふゆ〜び。彩紫ふて彩ゆゆゆ。彩ゆ
ゆ何まゆゆ〜ゆふの。ゆゆにゆ。上の昵近のまハ。何海ゆゆを。明

月おかの孟として生ぬるゝハかをるゆゑ也。まをうるし。此ゝ
ひ多ゝ。心ばかるべし。

わやゝゝとよそへまつべき　日　或おかの蓑蟲は。相蟲。文衣かゝ似る
まへ見バ。源氏のは無ゝ。よそへいふ。きゝうちゝ。はかゝし。といへる
よなし。朔月。花ゝ。いみしきひがこゝし。

いとよゝかゝるゝゆゑ　古本ひらゝ　うせかゝ。文衣のつゝつきまゝ。ぞ
ゝ。源氏ゝとよく似てゝ。とのゝまふし。朔月おの蓑蟲と源氏と似
ゆひてといつゝハ。ゝ。ゝ。おかゝ。ゆゝ。ゝ。ゝ。

衣のつゝきまゝ打ど世係氏といとよゝ世てゝゝバ又蘇つゞ
の係氏ゝ世てゝゝ世ゝ世ゝ世

大納言なる人法師になる日　こゝにも大納言なる人の髭を役をつ
とまつるといふ所に髭ふかくなる間あるべきふちきはやしがゝ
さまにこそ〳〵〳〵〳〵きんを〳〵〳〵とは字〳〵法師なる
髭髮ばかり上といふべき物なし　又花を好流のめ〳〵大納言ふ〳〵
納言なるとかよりはしりかゝるに人のトふ髭をいつる間のまゝしがおち
〳〵るゝいづれもかまれまを何ゝ仕をふるとしやもぞ
法やまゝをぞ〳〵ふかまるべ給ひ〳〵〳〵　日　法ふ花康保二年〳〵敷土鋪
二枚茵一枚といつる今花を餝帳を考ふ〳〵茵一枚の下ふ為親
王換衣所といふ文あり　こゝの法ふ此文までとゝ引べ〳〵ハ〳〵
ぞ畏〳〵ハいゝ

そしぶ〳〵　六月のひ〳〵　北山抄皇太子加元服條裏書云息所参事寛
平九年七月三日丙子為子内親王當夜参入延喜十六年十月九
二日甲辰故左大臣女参入用輦應和三年二月廿八日辛亥昌
子内親王参入俗謂之副臥乎
あゝぶ〳〵記ゝ〳〵ゝ　日　万ふ一ふふ左右の原氏ふ藝上のゝ
をほの光〳〵ふをつゝ〳〵といつるゝ〳〵御月ゝ或流ひゞゝし
〳〵への命婦　日　帝のれゝ〳〵ちゝ〳〵ゝ〳〵ゝ内命婦し　乗ふ内裏
ふ何優ゝ〳〵内命婦といふゝ〳〵を上への命婦といふべ〳〵といつるゝ
〳〵ぶ〳〵ゝ〳〵ハ外命婦ふ対つる内命婦ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ハ
〳〵〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

ゑむとびつるゑ、 九月のひ〳〵 三の旬のぶりゞハ、結旬の下へふくめるゝ
ゝて、そゝへゝ渡るてふをそゝし、畑ゝんゝるゝゝ、業は食し〳〵ゆきゞ
ゝ、作せはゞ〳〵、もとゆふ若き芸沢こゑんをゝんゝといふをもかく
のゞ〳〵そゞれゞ、ぶもゞ、ゆゝ〳〵ゞ〳〵。
ゝゐまつわ結ふ 日 ゝゐつゝわハ賜物を大花の夜ゝ〳〵し、ゝゐふハ代大花を
そゝゝて、係ていふゝゝし、次ゝゝもゝそのゞゝし。
こゝゐ 日 鈴和ゝわ、鹹和ゝゝハあゝゞ。
ゆ〳〵〳〵 三十九ゝ〳〵 ゝべて此河、本ハ斎〳〵し形ゐを、次〳〵ふゝつて、求ハ
ゝゞ〳〵結ゝふ男し〳〵中ふ、ゝ〳〵ハ係氏ゝを、なべて形ゝゞをゞゞて
ゝゝ〳〵とゞゞをし、ゆ〳〵〳〵ゝ事形ゞゝふゆ〳〵〳〵ふ同ゞ、和流ゝ、

ゆゝ〳〵〳〵ゝゝゝふゝ〳〵〳〵ゝゞり。
名のゞゝゞの仕中ハゝ〳〵 日 ゞゞゞゞゝゝふゝて、何と切てゝゝ、ゞゞのえ
ゝゝ〳〵結ゝでゝゝゞ〳〵ゝをし。
ゝふもつゞゞゞゞゞ、ゆひて 廿一のゝ〳〵 此上ふ何〳〵ゆゝゞ脱ゝゝゞゝ、そのゞゝハ、
さやゝ形ゝん人をゝゝふゝゝり、人とハゝゝゝゞ〳〵ゝふゝまでハ、係氏ゝのゝゝを、
ゞゞふゝつゝ係、ゝふもつゞゝゝハ、和係の地ゝゝゝ係ゝゝれバゝ形ゝゞゞを
の場ふ、ゝゝ〳〵ゝふ何ゝて、ゝゝハゝ〳〵のゝゞゞ、ゝゝハ後の人乃、写ゝゝて、
ゞゝ〳〵ゝゝ和ゝゝゝもゝゝゝゝ業式ゞゞゝゝゝゞて係ゝゝものゝ。
此〳〵ゞゞひゝゝて、光ゝふをゝり〳〵ゝ。
ゝれゝゝゝゞ係 日 ゝゝゝ形きゝゞのゝゝ和をゝゝ一ゝゝふゝひて、他のす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まづ申るなどふ物し給ひしに時々いふよりまた始めへ立ってその
まゝやうに侍つゝふ侍るうし。
名のみたゝぐ　はしかでもゞ侍へ〳〵んなべし
いひうとも給ふとゞ　源氏殿のそべての女君などとゞ申て。云人のその姫
君をひきるふいひ給つし。云るといふ言葉侍いてたの
づゝ文のふるひまり。
いとゞかゝ侍ちたゞとを　いひうとも〳〵ふ女君などとゞおふきゝ
中ゆも。ふいゝ〳〵ゆびまるかゝ〳〵ろへすゞ侍し。いゝとゞいひ。さへいい
へる侍ふべし。かゝ侍といつる伺ち。そのうゝろへるを。ふゆるゆみげう
らゆゞぜゝんをいふ侍うれでし。お侍の地よりいふまわゝびかゝ侍

ちきゞゝいふよりゆ。名をやはゞうゝいふまでハ。その時ふ源氏殿のみ
づゝゝゆゞきゝんをいつるし。宗紙侍をゞかゝ。ふをたゞゝいふを地侍乃
地の侍とんはるかゝいひ給ふ侍ゆふとゞをゞ女君のゆゆ乃ゝうゝざ
ふをふいつるハ。ふゞゝとし。ちきゞゝるゆきを。海ゆ逸（スキ）数奇（スキ）侍を侍
ゝゝ地ゝゝるハ。ふゞゝとゝ侍るて。侍きゆゝふたまへゝゝゞゞゝ。
なよゞゞふゆゝゝきゆゝハ侍ゝて。宗ふゆゝ記ゝゝふゝゝ乃ゝゞ。ふ
ゆゝゝ生ゝゝ少侍るゞゞゝきゝ。ゆて生ゝゝる人乃ゝてゝゝふ
ゝゝゝんゝゝいゝるし。
まゞ申るゞふ物し給ひ時ゝ日　上の。爰（ハヒ）湯のもべての侍を
ゝきて。ゝゝ侍つゝゝゝすゞ侍ゝゝゞゞ侍ゝゝし。

まぐ〳〵いふもこの格へ立つていふなり。なぐ〳〵いふもなぐさつ
うるを云ふ〳〵いつる用し。物ひ〳〵はものもぐハ。さべて苦さ〳〵うるを
俗ゝ〳〵物ものし。物ふひとを苦はものゆ。銭ひ〳〵ほをいぐ。
うちふのゝ〳〵うちまぐつとる 日 うまやでは文。中物なぐふて物〳〵物
ひ〳〵〳〵ろうさを云ふ〳〵いつる。此意は時のこふかぎ〳〵。
此物忌 日 河海ふ引き〳〵る儀軌のる。指きふるれまへ〳〵がぶ〳〵。ころ乃
儀軌ふいへる説〳〵。物忌といふれを。簾ぶなぐふつ〳〵るふりて。を
き沈やぐて君王の名〳〵て。造ゝ〳〵るものし。いく拙〳〵。
いぐ〳〵ぶなぐ 三の巻 上〳〵。四ふのゝ〳〵ふ〳〵ひよ〳〵し物ひて〳〵いつる。
ひ〳〵ぐ〳〵ハ。ひ〳〵物いつ〳〵ぶ〳〵〳〵つぐきて。いよ〳〵。四ふ書ふ〳〵物ふし。ものを

ていつぐといふ用〳〵。みるひ〳〵ものを沈ものてえべ〳〵。
あふいつ〳〵のふ〳〵ものあぐつる物〳〵 日 〳〵べてあぐつる物〳〵。ゝ〳〵ふ〳〵物ものく物
ぐいつふ〳〵ハ。物を物ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵いつる。〳〵を源氏ものひ〳〵。〳〵物〳〵
ぬを。ものちぐふ物ものを〳〵。近き〳〵ろ。〳〵物〳〵物〳〵いふ物ふ。
源氏の物ものを。物ぐつる物〳〵ものひふ〳〵ふ物ものハ。俗ものし。
物ものぬぐ〳〵ろ 日 禁中ふて。源氏ものひ物ものる。
物ものを物ふ 日 〳〵べ〳〵つ〳〵ものを〳〵ハ。俗ものふ。物ものを。俗
〳〵いふ〳〵ハ〳〵〳〵〳〵〳〵ものひ〳〵。
君のふ〳〵ぐものいつ〳〵ものかつ〳〵づき物ふ〳〵ものを 日 〳〵ものを。四ふ日の高のを
みち〳〵いつるハ。俗ものし。物中物のものを〳〵し。男物女の洋へ〳〵ふ〳〵ものを。

むといひて、けそくうハ、あひきを、あくいつてくし、さんばつさうとかし
づきのふとつふもゐ中ねをとし。
をさくしゆちおくをぞ　日　かくさるふつうひくるをさくハ、猫をさくつめ
て、ちやうあさいそびたうくふ定をていふ須し、猫をかたうくいふう
ゆくをくいつるよくうけるまつ、こうをさくつをてくうふ立おくをぞと
まハわくびた鏡おそふぬをくし、さをバ信をあわまりといふをこうれあ
ようけるまつ、けまりをおくをもせぬし、些沈の文う、殿上ふもをさ
をくをくぎくふくわるハいくくうひざるハうりるをぞしをハ同じ
をくをし殿上ふもけまりくもいくいふをし。ほふ治定のんをいひ、
或をもをくぎくをくしをぞいつるハをくふうあをぞ、又花をに漸又

頗をぞいつふがめくしとけるもかあるハぞ。
むつをゆく　日　くを元ぎをくしをてくふ引をる京盃をけるを河海う
出くをう、二の白いくくもくまくをう、けをけるう、猫をけ絵のおくく。
のどやうゆる　日　信をふをつゆるくいふをくし。
おかをゆぶく　日　烟るく　伊殿油くをまう、清ハ油火くいふをし、
かくを　日　河海ふ頑片輪をけるうをとふをぞをし、猫をの絵乃ごく。
おのがをく　日　面くををくふくいふをし。　弄花面流ふみづくのん
ぎくけまゆゆいつくいひ、閑月ふ女けんのをふくいつる、皆河海ふ各
自塗をけるをふくうて、猫くをてるものし、をくふけをけををふわくび。
くを元ふ伊のをぎをくし。

まちがわかくんゝ夕苦わかどのこそ　曰　夕苦わかどのまちがわかくんみこそ
といふこと し。まちがわハ。みのこゝもとといふも。夕苦へうゝもる用のハわゝびこそ
まちがやこいつるハ。まりちびわゝハふちかゝで。こんとうを先こるを
いふなり。
おふざこう わる　曰　ゆこハ。万葉ゝりつふこゝとこいふこゝとこ。そこて。こを用じく
ゆこ用こびもこハ。つふこゝこ。かこきんを。こゝこを。俗の考後ふこゝこいつひ。
つひふあふこゝこ。おわこゝこ。おわしゝこゝ。わるべし。考後ふいふこゝこ。多く。
又後ふこゝこ。ひろみこゝ。うゝこゝ。ゝもこゝ。ゝりかゝる。ゝもこゝ。ひおこゝ。
かこはゝしこゝ。こゝる。ゝ　曰　ゝこゝこハ。ゝふを。ゝふふゝこゝ。ゝこゝべき。後し。ゝもゝ。ゝ。
上の。ゝもゝこれこゝこいつるハ。こゝへゝ。後こゝ。わるふ。こんこゝふゝこいつひてハ。こゝ

んこゝこゝハのかゝこ。こゝ。こゝこゝこゝ。ふゝこゝこ。後の後ふかゝこゝこ
こゝハし。こゝんこゝれこゝこゝこいつひこゝて。こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ。後
わこゝこゝこゝこゝこゝし。
こゝこふこゝて　曰　後こゝふ。足下ハ。人こゝかゝしこゝこゝ。後こゝふ。こゝこゝを足下こゝん
後こゝハこゝこゝ。後こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこ

えだごとし。うとしとはいつゝ異好をや。さて上の女のうれをしこと
とゝ〳〵より。不定の嫁し。志なくば先といふ名目も。さやく御使の
うちゝ夕執先あるべしゝ。

ゆゑしきを　日　まべて和侍あるべしゝ。

へゝふして。ゝぶゝゆゝゝゝほどゝゝゝゝて。後ゝふ。ゝんぐいゝゝゝ
いふかぐゝゝゝし。傳文り可といふゝゝゝゝゝべし。

そのゝゝ況ゝゝゝゝゝ　みのひゝ　そのゝゝとは上のゝゝゝゝめき。

ゝゝふしゝゝゝゝゝ

おやぞき　同　おやぞ〳〵おやそうおいそうこゝろ〳〵好ゞ皆あややそうゝゝ

ふしてそのゆゑおのゝゝいそゝうかたりつり

ゆゑづきて　同　何みされ一藝好どをバ為ていふもいづし。ゆ

え何ふゆゑづきてと改ゝうハそうし。そうゝやそうゝひまびて。ゆゑを

佐宗ゝうゝと好どバ佐宗ゝてゝうゝいつゝどゝ見ゆゑといやゝうゝもむつゝ

く説ゝうゝどかまつゝど。ゝべて〳〵ゆゑ宗好ゝゆゑきゝうゝ申て。言ゝ好とゝ

宗佐ゝ此和佐ゝどゝて八ゝ好をなゝとゝ。ゝゝで此和佐ゝ此和佐のこ

ろのやゝ申て。そゝべきし。ゆゑといふゝゝと。此和佐をどゝて八かゝう

ゝゝと故の宗由好宗乃ゝとゝふゝつゝゝで藝能ふゝつゝ。ゝゝきてゝふ

もつゝと。ゆゝきゝひふゝもゝゝと。そうゝべきゆゝ佐ゝわゝ申。ゆゑをりゝと。ゝゝ申

ゝとゝいつり。

まゝ孫びいづゝゝゝゝ　同　ゝゝべてゝゝゝゝふゝとゝそのゝゝゝゝゝ佐ゝうゝゝをいふ。

ゝゝひゝゝゝゝゝゝ　同　腐ゝんし。下ゝんゝゝハわゝゝゝ。

ゝゝゝゝて　同　ゝゝゝ何ふ含ゝ弟ゝゝといつゝゝゝゝゝ。ゝゝ申愛ゝゝしゝといへ

ゝゝゝゝゝゝゝり。咲ゝゝ彼宇惠愛ゝゝ廻ゝて別ゝゝゝゝゝ。

ゝゝゝゝゝゝゝ

西はら人もかなくしもおかくしいつふ。対へてえべし。
和よくいひそなはるべし　曰　法くこあうかるこ法はまでよくゆきうりていふ。
うれはうへさぐめけるこそ　曰　えべてさぐむとハ和法ゆてハ和を強ぐるを
いつり。即チ西定といふ。如の形ゆ強ぐるよし。法ふ一こふ決
定するとのをいへ。ハ異し。
きくおくきす　曰　法は女はうれわきけいふ。ほふ当時の人のう
へをいふゆえといふハ。ぐり。
さハふへど　曰　此何をいづとゆても。法ふ行といふをもといふをし。
やむこと好き　曰　此ハ也なやぐりゆ。ふぐきをよりいひて。もぐ
しがくいふと曰ぐくて。安止事し。うれ人をいふも好ぐ

うふしがくきをうりゆるし。ふを須ふ惱ヤムコトすきもといふハむぐ
てなり。
うりぐふ　曰　えをくゆおし。うハ形りのぐをうくもとハやむす
るきえくをえをくふをうりてし。ほふまぬぐふいひをゆ
てくいふふぐり。うりぐふハまるぐのをゆてりべ。
きぐをくまて　七のひ　ほくはまてし。朔月ふ師説て出るほ。
まつべし。用好くまぐり。
家しうハりね　曰　家ハ異ケゆて。けやしかるし。後しき代。あやし
をつふいへど。即後しかるぬふて。をつふうるゆ。しをきも
後のすゆをかぐべ。和のうをとのしかるぬを。をうハあべ

といふなり。こゝを紙なり。

ちゝちひなり　曰　通時のこゝろ。代いつゝし。文字〳〵いつゝ重て。文紙乃

分除をこゝていつゝ〳〵おもはゞ。上ゝの位のこゝろびを思ふ。

あゝ紙こゝハうゝじ。

おまゝ〳〵はかんゞちめ　曰　位こゝふちゝめゞをは公つゝいつゝとし。公つゝ

いつゝゞうゝあし。言はゞ〳〵も何も。公つゝのやゝうゝもいつゝなをいふ。次の非参

儀のこゝし。お封へてこゝべし。こゝをふ。地のちゝめゞはりこゝるんゝいつゝハ。云

のかはゝとゝかゝまふべし。始めて公つゝふはりゝこゝ。あゝいつゝ〳〵とゞ

へつゝ。そハおまゝうゝはりこゝる。ゞゞこゝし。こゝ泊ふ。ゝこハ多目はき人乃。

公つゝふちゝ〳〵ゞいつゝ〳〵いつゝも。ゞゞこゝし。

非参儀の三曰位ゞゞ　曰　いまゞ参儀ゝ位ゞゞして。公つゝふ

わゝゞゞる。三位曰位の人をいつゝ。位をゞて。三位以上をゞ。

公つゝ〳〵こゝるこゝとゞいつゝゞ。こゝハ官ふ紙て。参儀以上を公つゝ〳〵こゝて。そ

ゝふ封へ〳〵いつゝし。おまゝ〳〵はかんゞちめゝ。非参儀のゝいつゝ。

位の幾ひをゝて紙べし。こゝ表紙ふ。三の字ちゝ〳〵こゝて。そゝふ

ゝれゝふハゞゞこゝし。うゝ〳〵ゞゞ。三曰位〳〵いつゝゞ位し。

曰位〳〵かゞゝりていつゝゞきこゝろふ。こゝ。

やゝこゝふこゝ　曰　こゝふわゝ〳〵ゞれゞ。ゞゞこゝ。

ゝふめゝうゝふゝゝゝ

たゝ人のいとむやうふうに　月　今るゝのいつゝふさゝふゝぎうゝしたをう
ゝいつるハうゝぶる物をまゝごをねぞして作をゝるゝ中ねの源氏ゝふ
いつゝし源氏ゝハよくゝうゝをえ行ふべきゝるゝふゝうゝもえなゝ人のいえ
んやうゝをゝし　ゝゝこのゝちゝゝ母人のいゝんやうゝをゝいふほハゝむゝゝし
ゝゝゝゝもいゝゝび　月　此頃ゝ法のうゝちうひてゝをゝゝゝゝもゝゝんもむゝゝろく
まゝゝゝとうる下へうきてんなべゝ　さやうゝ所ゝ人ゝゝ行ゝるもうゝちうひて
ゝゝゝゝゝゝんゝもゝゝゝゝゝゝ

がゝといつてはゞ時実ふ形ふぐゝとつひゝらゝにゝいつゝび古へハ
を以へることゝ形ふふこと以ハ作り地位ゆゑ惟光良信ゆゑとおきて和ハ
きべゝ人ゝ名をハ作ゝびゝて名ハいふなき形をなふぐゝゐ
ゐゝしなふがゝの院ゆふぐゝ信ゆゑぐゝいつゝゐぐひも名の
名といつべきをがゝいつゝうゝの地位ゆゑぐゝハ作と地位ゆゑぐゝ皆人ゝ
の名ハを作ゆゑ名ゝ人ゝゆゑひていふ形ふも皆名といつゝぞゝ
上ゞ上きゝうゝ形きハりぬ　日　まゞ此形定き名ゝ名より後とまで
きべゝ皆ゝ名ゝ中ハ形の女乃ゆゑしゝてゝ形ハ信き上の作りな
とのゞきゞとゝもゝとゝゐゝ後ゝゝきまでの條ゝをゝき
ていつゝて文ゝきゝ乃下の條ゝきゝりまでへも おのづゝゝゐる信

なゝり きゝバ此信を以て此形定き みる中ハ形のゆふて 上ゞ上ゝ
下ゞ下とハいづゝゝざるゝ以きべし ゝゞ名ふ中ゐの何ゝ人のき
ゐるゝゝうゐきゐきバゝゝ中ハ形ふうんゝゝ下ハきゞゝといふきゝふ
ゐきバゝゝ什信のやうゝと号ふふ もゝゝ中の形と編ゞべき 下ゞ人ふ
きゐおしゞかゝて中ハ形のゆを以ふゝうふおのづゝゝ上ゝ下号ふん
ゞへもゝゝありてゐるし きゝ又上作り形りのゞきゞゝゝの條より
もゝハゝ形ゝよのおゞゝゝ後ゞ乃條ゝハ女の身ハ形の條ゝを
もゝもゝいひゝゝきゝより下の條ゝハゝ女のゝおきて守きひの志形
ゐゐをいひてゝれより上ゝ志ゝと下ゝハ形定の竪ゝ緯（タテヨコ）との
めゝ たゝゝゝわゝハきゝゞもゝんをつきてゝきゝふゝれきん味ふべ

しかやどりふんむしを。俗こぬしにさぶらうんといふてるほいうれる
ざちりかし。

業行りと人をちらしもどろく　月　花もふこれをそ下の歌の人をいつもしとわ
ふそ。しもづりてそとてもみる中はの歌のうちし。

そぞろ流しそんしそ　月　葬の門といふ。そぞろ流といふし

ちはやぶるおいそ　月　神祇ぶ身上をうちつけてそ〳〵いつはぶそし。

かくかぶしても　月　しもひるづふ一つ二つのかぶりんまでもといふし。

細信ふ。ふるはは中ふもうりあるべき歌しとわるはうわるぞ。

さるかとあて　月　中はふふるりてハといふとし。ちぶしてきぞをかきそ〳〵

ふるり。俗ぎきそ俗もて。さるべし。

そてぐ〳〵記ものをぞしそ　月　だもぐハやを俗ぶるかるべし。だもてハ中

えぞ。しもと俗ふをぞの下ふ。ちかえり出べきもめし。といふ俗を加へて。

仏はさもしもぞ。ちるにそりぐ。えがてし。

いでや　月　俗云ふいやかるといふふよりりてるり。は俗いづもちそし

かはは志あるるふふぶふそ　月　芸をのをハ芸かるものをのそし

大ちはは業つけて　九のち　朔月ふ。俗説そて出たる俗。ちるかるそ

ぞいぐぐし。ぐづべし。此段。業はそ人ふるりてまるふさるそし。

かしこうそそ　月　俗俗しものりてこれをそぐかしこそ人ふてもといふし。

えりゆりそ　月　人ばかりきよし。

かはハ下ふしもそ　月　俗月俗説いそ〳〵遠へそ。此段。花をふ。

天下ハ、ひろしといへども、佞人カ仲会をてをさむるバ、中〳〵やすき事なり。
せざる所ハ中ハ、ひとりゞ一人のそうしゆるバ、ゆづるかたく
て、たゞ事なるべし。けわしゝハ、しろしめすべいふべし。とゞまるべからざる
下ハうみうり、おびきて　日　聖徳太子憲法ハ、上行ハ下靡（なびく）　なびくを隨（ながう）
ふるしうハ、上ふるゝ人の作るまゝ、ふ行へぞ。ゆるがるゝ。
せざるきゝ所ハ、うちの　日　せざるきとハ、天下の政をハ、ゆきふ、封へていふし。ゆき
あり、封へていふをハ、わるゝべ。
ゆらぐべ、かるべきたゞすべし　日　ほふ、ゆ内も、天下のわく〳〵まぐのこと
〳〵てといつるハ、ゆゞてし。たゞすとハ、緊要ゆるすたといふし。
〳〵〳〵おきを　日　下ハ、同じくそゝ〳〵といふ所へ〳〵ハ、ゆ伝し。

同じくハ、ゆ、ちう〳〵いつるゝ　日　男ハ、ゆ、ちをて、おゆるとこゝゆ、いつるさるし。
いつるハ、伝ふも、ゆ、ゆ、いつるゆゞいつるゆゞいふいつるし。　ほふ、天下の政をゆゞ
賢大夫ゞふ〳〵〳〵といつる、さ〳〵ふかゆハぬ〳〵し。又葵上ふ源氏のえゞ、ゆ〳〵ゞ。
ん〳〵かゆふ　日　思ひさゞむべきよるべとをゞうゆふ、ふゆふ〳〵ふ〳〵つゞく伝
ゆり、よるべとをべきほゞふふゆふし。
さゞゆりがゞきゆるべ　日　上ゆおゆる中ふ、えゆゆし思ひ定む
ゆゞかりきゞるといつるをうきていつるし。然思ひ定めゞ定ハ、ゆ、ゆ
ゆる所ゆるべ〳〵。みづ〳〵しゝかゆ〳〵しゝ。
こゝろふ〳〵ふ〳〵〳〵ゆ、ゆ　日　久〳〵しゝゆ〳〵〳〵ハ、女もゆ、ゆ
ゆをゞ〳〵し〳〵ふ〳〵〳〵ゆ、女の〳〵ゆふ、ゆ〳〵〳〵きし。

ささぐ　行う　十はひ〜　ささぐ〜ハ　ん　ふ　て　お　ー　て　か　る　く　い　て　ふ　た　う　わ　て

いて　て　行　う　ハ　行　う　て　し　ん　ふ　て　お　ー　て　う　う　ほ　う　い　へ　ど　も　さ　や　う　ば　ど　ひ

も　ば　お　う　ハ　ゆ　う　ー　か　ら　ん　の　こ　し　。　俳　月　師　説　ハ　行　う　く　い　て　河　の　勢　ひ　ふ

る　が　て　て　。　又　く　く　河　ふ　行　う　を　行　や　や　く　ま　ち　中　ば　え　る　時　ち　こ　く　と　ば　し

く　ハ　俗　こ　し　。

ん　て　て　ま　び　び　日　ま　び　き　き　や　う　ふ　ま　て　て　を　い　ふ　。　ほ　ふ　こ　と　ば　く　ま　ひ　ま　ぶ

こ　く　と　て　て　び　く　い　て　ハ　う　ね　こ　び　。

こ　く　ば　き　く　ま　ひ　く　こ　ま　ぬ　ど　ふ　日　細　流　ふ　こ　ま　て　句　を　切　て　ん　を　上　へ　う　こ　て

ま　こ　く　と　て　う　ど　め　ー　。　ま　て　う　が　縫　き　ま　わ　ど　ふ　ば　ま　ひ　行　う　ば　。　ま　て　こ　て　こ　て

の　み　き　は　え　く　ひ　ま　ハ　く　い　ふ　し　。　し　く　河　ふ　て　う　ま　ひ　く　女　を　え　て　て　つ　む　る

ぶ　ふ　く　い　へ　る　ハ　る　ま　が　て　て　。　そ　え　て　ま　き　く　ま　る　を　。　こ　く　え　て　て　つ　む　る　こ　ま　ふ　ま

て　て　い　て　る　ま　ま　で　こ　る　こ　に　ま　て　て　び　。　こ　べ　て　ま　て　る　き　く　く　て　る　河　ハ　こ　の

本　ま　こ　ま　ハ　て　の　狭　き　こ　と　ま　り　ま　る　ま　ま　で　も　。　風　る　こ　ま　ハ　ま　く　く　も　こ　う　び　。

こ　く　ハ　ま　こ　人　こ　ま　ま　ま　く　こ　く　て　。　ま　ま　て　す　る　ま　ま　か　く　ま　を　。　こ　こ　る　こ　て　く

ま　ふ　て　ふ　。　こ　こ　こ　て　て　。　書　を　こ　こ　び　ま　ふ　こ　こ　も　。　ま　こ　人　こ　。　こ　ま　ふ　る　こ　く　む

て　て　く　こ　て　。　し　ま　や　こ　か　く　ま　を　。　ま　く　く　ま　で　て　て　ま　ま　ま　こ　人　こ　。　こ　ま　や　く　ふ

て　む　て　て　く　く　ハ　ま　く　く　ま　こ　こ　ま　ま　ま

て男おんなわらはなれぬし。俤うかぶ。ちがをんをみるいふまし。俤ふかぐ〜
しまをうたうハさぬし。といつるハしぐ〜つ。さて物がたりといつるまハそべ〜
学中ハ女き。おくまでくるハぬ。雑さわらぐ。みるる。物するば。右のむ〜物するぐ。
そもをよく〜もてうくまでぞやといふまし。
うつとなせぞうぐ。ゑく 日 此所ひざぬむつうくして。ふく〜ハ物ふて。
ものべて物をよく〜物して。さるべ〜。まぐわぐ。ゑく〜ハ。うぐ。るさ
まふるる。ぬいして。ぐぶわぐし。といふハ異し。さて物やうふ。
女ら〜き女ぞ〜ゑもバ。さやうハ女ら。成んよる〜〜して。あるるきを
ふりこそ〜俤〜物する。ふ。おのづう〜。るを物をうれも。うぐ。るうり
うわ物さる〜さぬる。ものぞ〜といふし。 細所ふ。うわよるて。るれハう〜

とうるハ。ぬ〜き。俤(ヒゴト)。流れし。うるもよるることいぞうるるを物をとハいちん。
こるもぬるぐめのなんしまもべ〜 日 右のちんハ。物ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。物する物ふ
ふ。ふ。ふ。ふ。女をまづうるをつ〜しむべきこそぐ。といふまもいつるし。ぬ一
の雑といつぐ〜中ふもぐし。さふもうう〜じ。うり物をバわぐめくもつへふハ。
ふぐううぐしといつるハ。ぬ〜ぐれバ。ぬ一の雑とハいふべ〜もうう〜ぐれぐし。
ゑく〜ぐ中ふ物の色なる俤ぐ。ぬ。うる。 日 此所。むう〜。うり。俤(ミ)。俤。るうる。うを
もふぐ。うう。こるハ。なの色物るまぐ。ぬ〜。俤て。人のうしろ。のぐ。ぐ。
てよむべ〜。人のうしろ。といハ。夫のうしろ。をるをつふ。夫のうう〜ろ。
ををる方物るるハ。女のよろぐ。の事物中ふ。物ふ物の色をてハえうる俤
ぐき。ぬ一のうぐ。物るをいつう。俤ぐもぬうをぬ〜てハ。るぐ中ふ。といふ俤

ゆゝしぎ。よく味ふべし。

おのゝきふるまひかなはぬてもうゝ 同 地のわりあしうるゝうけやゝ
ある。風流の方ハ。まのうしろめたき方あハ。たゝてもよかるべきがめゝたれど
もとゝし。地のわりあしきはしのふるまひまるをつゝ。
又まゝ〳〵ものきゝ 同 又ついふ何。下ふいぐハたちをゝかゝぐらんと
いつへうきをそ見べし。風流ある方ハ。たゝてもよかるべしとゝ見ることゞも。
又さやうふもつゝびのそこふそし。そのよう成いひぐるし。ほふ又ついふ何
をゝ〳〵んなてしらとより又ふのふつ程とせるゝ侍らし。
みゝきさゝがちふ 同 たゝ女をみる髪成〳〵ふ。額髪(ヒタヒガミ)として。花ちふ。
耳よりあへもゝ〳〵ものをかくち成つゝろ為ゝ。耳よりあへ

ゝゝゝ髪をゝ侍ゝゝむつゝ〳〵ものひて。耳のうしろへゝいゝて。
耳ふゝきむをいふ。或地侍ふ。ゝきをゝどゝ。ゝきゝゝもゝぐらひゝること
ゝ侍ゝ。みゝきゝゝ成ゝもゝゝいつゝ。此地侍。紙号ふ正三位〳〵ものゝどゝ。
ひゝきゝゝをゝ〳〵。
ゝゝゝ侍き 同 貧相ゝゝいふゝ。むゝゝてゝし。侍きふ。美相とゝゝハ。貧
おゝゝハゝゝゝゝれど。侍ハ別(ベツ)ゝ侍るべし。
ゝゝゝゝ 同 刀自(トジ)を。ゝ侍ふ。ゝゝじゝいふし。ゝをふゝ侍ふハ。ゝゝの
書室のゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 土の初ゝ むつゝ〳〵かゝゝ地書の。地乃あ
ゝをゝをゝゝ。ゝゝゝゝのゝゝ侍ゝをゝゝゝゝゝゝ。分別あらんゝ。
侍〳〵ゝゝゝし。

うちもとをきまと　日　かくてそうひをき書けこちかきこそ思ひて心ゝり
ゝゝひもきゝまと文いふひかきこと思ひて侍もさゝぐむし侍はしぐり
おわや宮きゝぐきく　日　おのゞ身かきつづくゝぬ人のうへろるゞそうく
よわうん宮て　ゝゝゝゝゝゝ思ふこゝしけおわやきは侍のいやしれ云
ふ身わわづくゝぬ人のうへのゝふ妬もるゞ法界ろんきしいふ法
界けきふかるまり格冊るふかるまゝゝおわや宮ゝぐちて
きんぞくけくちもんうゝゝ為べるまゞ身けゝへまてハ法四んぐ
ふゝれを思ひきゝぬよ紫式部日記ふきぐろふんやまゝう おわや
きぐゝとう よかゝぬ人ろいふやゝふふくゝを思ひ見ゝわゝう 宮
見西侍見ゝをぬ変者ふゞふきあわや事ゝゝゝぐ後るる なぐ

ゝゝふり あやなきゝはこ氣身ふわづくゝぬるふ腹ぐろをもていへ
ふし 侍き例も考へぐゝみぐりぐゝし
んゝゝれふ思ひわるを　日　ゝをはおわや宮ゝゝゝゝゝゝはゝ雑ゝし
つぎてんれべゝゝゝ　ゝて所ふくゝはゝ二つを合きていふし
思ひ出ゝゝひ　日　ゝゝゝる思んのうちふ思ひ出ても思ふをつふゝゝん
ゝれふ思ひわるゝ妬中ふ笑ふべきゝる世思ひ出ていはゝひもを
ふし思ひわるゝふふ出ゝゝをうけゝかるきゝるなどゝふゞゞあや
しけゝるをうゝきゝゝ形ゞわきても人ゝりけきてし人よかゝゝ侍りゝきゝす
をけゝし 宗祇法ふくちをゝ思ふゝを形どをゝゝとけゝはゝゞてゝし
所ゝ抜ゝをうちゝゝふ　日　ゝをはゝ思ひわるゝ妬中ふ

ゆゝしくそれ〳〵歌よみきるべき程ゆゑ
ひて、歌よみきるし、さて人〳〵よるこい
え、むりごとるこいつる、皆書りゆゑ
ひるべきが所し、宗祇法
あるれ、あがうこいつる、又むがこそし、行るとさていふべきあわこび、
ちふごとぞ所ど、日 史のそのさ女況、書ちて、そ是は行るすぞ所どいひてし、
所をつるふ、日 河海ふ、清〳〵しにし、こそ、俗ヨ りつふ、ちゝやう所〳〵ぬ、ちと、
さ〳〵ふぎあそ、うち俗ホのきるあて、あをつうあるさ女をいつし、
いづハくちを〳〵かぬ、日 くちを〳〵きう況、つよ〳〵いつる何し、ちゝが中ふ
ゝ〳〵ふちうこもさで、一つづきし、
こえきて、日 あやう所をいつふ、花をふをよ所ど女〳〵しにんし〳〵ゝて、
ふゝ何ふ、むさふ所るめきて〳〵いつる、ちゝ〳〵、祝ゝ〳〵ふ到ひる

何し、祝そ、ちゝびふるめ所、あつうひをるをふい、祝ふちゝびひて、祝のち
ゝれきふ、大やうふてあるさ女し、
ちかゝ〳〵ゝきつちゝひて、日 〳〵ゝつぬるとバ、男ち〳〵ゝきて、ちりつちゝふ
ちり、情ふ、ちゝ所ど、ちゝ〳〵し、ちゝいつるふ、ちゝ、
ちゝゝもゝ所〳〵、日 ちゝて、此何そ、祝のうゝ女ゝある況、かゝ〳〵ゝ所ゝと所ふ
やうゝ所ゝきし、おゝきを祝ゝふいつふ、ちゝゝ、皆俗ヨふいつふ、ハおゝ〳〵ちゝ
ちり、ふふ、男ふ引つちゝちゝ〳〵ゝかゝどの如ちゝバし〳〵いつるハ俗ふいつふ、ちゝ
ちゝるふや、
ぞふかゝ〳〵むゝひて、ちゝ、日 ひゝぞふ、ちゝいつふ、ちゝ所ちつちゝひ、ちゝ女、ちゝ、ちゝ、ま
づちゝ〳〵諸ちゝひ、ちゝる、ちゝ俗ふつゝきていつる、し、

ゐもちゐるをとしハ　曰　別　あふ雑ともいふほどし。
ゑんゝゝびうるゝ　曰　夫の助をばゝゝゝ

くよく知ていふるなりとどもし。ほふりうきんといふハこれなり。
さぶえかめて　日　上件かいて。さぶぐれ女をたべて。いづもをよくと
も。宣えるなり。ほふ。そぐ。此上の二種をのをけぎていふハかれなり。
上ふもようじ　日　花ちふ。三界唯一心えのんしといふ。くるがて
てし。ちもこれなかやうはよりかきてこれ引ちくハいふぞや。
後ぢきぐ女しれるぐし　日　此段。老〳〵ふくちを合て考ハ
ふ人のんふもつ也。ふもつ也。ちぐふとあと。きべきまゝふ
直うしびしてし。ちく〳〵まぐちるうとし。伝ちふ。和のまがちるを。孫ぢと
しわとつふて。もと日ちふて。ちもも也へて。ほふ。ぢきがるし化人を
ふといつふぐ。後。宮ふつまていつるて。えがてし。

ちづう。ぢんのおもむき　十二の乞〳〵　かろぐし〳〵　神ねんをいつ。
よるべ　日　ちひもも女をいふ。ほふ。ぢ書しといつるハしるがつ。法り
つひのしまと。ふといつぞ。ぢ書ぢる。
つちのけ。ゆちよりんなせ　日　ゆちよりれる。上ふもいつぞ〳〵。伝ちぐふ
もつも。えて〳〵ぢ。ちるべき。ぢ〳〵つちを。ゆちをそと。ようきもいつし。
んぐせ。うちをへちちんをバ　日　ほふ。美のちふ。乳のつくやうけんと〳〵
いつるいうき。えぐてし。うちちくちゆちよりをと。合をていつる。河り
て。おまのけといつることし
よ。ちてびふ。ちひ　日　拾ぢふ。信ふいふ。ちちひ和のきもしといひ。ちと。河ふ。
まちを和といふかどの日し。といつるがめし。　朔月。作。伝ふ。かく。まめや

ふもづゝ物ゝうへふ。ゝ。もそや塔婆をべゝゝいてハゝゝゝぐ
ゝ。ゝよう後こびふもひてといふ何を行ゝんはゝゝふ。
ゝしろやをゝのどきに雨ぐふつゝゝハ　日　ゝゝ上の。祖まんやうり。
ゝづゝ物ゝんの銀ゝいゝるものし。
ゝゝゝいふべきゝゝと。ゝ　日　ゝゝゝハ用ゝふよもべゝ。細流ふ。後後八
文を引ゝゝる。ゝゝふゝゝゝぬゝゝし。
ゝゝゝぬゝゝふ　日　恨ひべきゝゝゝゝぬゝゝゝゝゝゝし。
うへゝつゝと物ゝ　日　ゝゝ。後後の。ゝがゝゝし。
みゝゝをゝゝゝ　日　みゝをふゝゝつゝゝゝいつゝ。ゝべゝゝゝふんゝゝに
ゝてゝゝゝつゝゝし。

ゝる先ゝゝまへふ　日　男のつゝぐゝゝゝゝゝきんゝゝゝゝをバゝゝゝぬゝゝゝゝふ。
ゝゝゝゝゝて為ゝをふ。ゝゝつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝし。
ゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゆるごとち　曰　古き女房どもし。伺海ふ後浮書沖引出てるて抜き
ていてがおく〜。
忘のほんを　曰　ゑ〜ハ仕女の男ぜいてるし。
えもひごゝぜきさごりて　曰　あ〜髪をそぎとてるるよと後悔ち
さ毎ぜり。
やぐてうひそひて　その忍ひいでゝ　曰　一本かやぐてけ下ふうひそひて
〜いふおもどけあるぐちあ〜き此河をてハやぐてといふて味ど。
湖月けをふ此ゑ和きハ曰ゑけ下ふ和ゑ和ぐ〜けてとそひ
てさ〜らふちぶるゆ。又一本かその忍ひ出といふちあうけ〜ち
よくと〜いふまでけ七もどけ好きハあひそひて〜いふ初の二つあ

ふりらりて。その中ゐ（アヒダ）侍をえおそて。おち〜ゑる。此侍ぞと好く
てゑ味すぞ。やぐてあひそひてとハ一ゑびそむき〜後男けんの好
ぐむべきあ。も好くてそむき〜ゑ又うてあひそふ。その
忍ひ出ゑ。そひふそむきて和を出〜る侍。忍ひ出をいふ。
なのゑふうろふ　曰　この方のゑゑ。ゆ〜ふうろふまハあ〜でぐる
さうろふゑし。あわざりふ〜いふ侍。かし〜ぬがり。又〜ゆゑ河て。
和のゑ〜して〜いてハ。ゆゑあけ女を和ぐりふとるゑうゑハ遺り。
えそゑ〜んぐ〜いゑわ〜く忍ぐ　古のひ〜　〜〜河ふ女の男をいゑう〜
く忍りぐのゑふいてるハ〜ぐり。男けんり女をいゑわ〜く忍ぐし。
ゑるかゑけゑゑが　曰　えゑり〜んぐ〜沖いゑり〜く忍ふ方けゑゑがし。よ

をがとハ麻いとむ布をいふ。をべてよろべ又よをが略どうをと本書しん
ねしるハしるぐりかーとなる書ふをかぎ〳〵ぞ。
しるぢろきふ　曰　初きをぐ〳〵ぐんしといつるほうし。伝えふ。をやうはぐさく
をふ〳〵いふりうくれり。しるを河の説。らなし。
よろべ〳〵ろるちぐ〳〵ふ　曰　伝ふ男ふ對をる親食ん〳〵ぐへまでといつるれか
あうぞ。よろべのるすとハ。ろるはすをつふし。
ろんぞべきるすをバ〳〵〳〵むべ〳〵むふ〳〵ぬとう〳〵　こそ曰ぐるれ二つ
をれかりて　ぬるふつきて　ぬをる〳〵ふ〳〵ふり。をんぞるハ。ん〳〵ふう〳〵めし〳〵
ふふて。う〳〵むべ〳〵し　ぬ　ハ。怪をつふべきふ〳〵ぬ。ん〳〵ふふをと。ふ
ふふ〳〵をを二つふををいつるし。えををるをふを。しるを河ふ。えををえ

ぬふちふし〳〵いつるハ。う〳〵〳〵人の遠ひし。
ををふつをを　曰　世下ふ。ふりてをいつふをぬ加へ〳〵ん〳〵ぬべ〳〵。
ろる人〳〵　曰　をを女のつへ〳〵ら。ひ〳〵〳〵ふ。ふりてし。ををまるハ。他へ〳〵り
ぬんのやむをいふ。
ぬをぐぬ布ぬ　曰　河海ふ。文選を引きるハ本し。物をぞををハ白氏文集
の偶吟詩ふ。無根水任方圓器不繫舟隨去住風。といつるををり
て書ふし。をを。ぞふつりやぬ〳〵ハ。武本文りかつををいつり。
ぬのもぐぎぬきう〳〵ぐひ　に　女のつぐふ〳〵を。他へ人をるるやうぬうをがを
しをるうををいふ。しみ河ふつをり男ぬを〳〵ゆ〳〵をを。よのもぐぎぬ
きぐいつるつぐぐり。又々執上のるふわををるもつ〳〵ぐ。又強き条ぬ白

をそ〳〵ふりまうるもうるはそび此方努神ぶりまる事をかまるの

さ〳〵なりしてと　曰　さまはなるおもとといふべきてくれるをおわれ〳〵といへ

ふるさ・うやまちかくて又ちうて・赤〳〵しむる男はうあつきていへでし・

そとかくくとしるぶあべき物〳〵うくしむをうく　曰　ほふ業上はうく〳〵といへ

ふるさ・ふるさうふるさうびうはいで・しるぶあべきふ〳〵きものどやうふ

又ちのぶを主〳〵して・まんこるる陰どかわるとといへばバ業上の志

んぞべきうほだ又ちもふるさふかそんかをを女の本様とまうと

ち・中将の侍のことふたづうぬこし・

えぐらきぬうと　曰　侍ちふ・ほをしかきめうといふこし・業或は日記

ふようびつもぐ・ぶるんのまびるるかきまふふるきあ古えきさ

かぐ〳〵あとかひぐちふ・ちちえぐらう〳〵ぞ・ぶちうもりれまぐいとろろ

づきかく〳〵又ゆるるざしとうるもほ・ほえぐらう〳〵は・絵よみ念佛なかし

ほやとあぞいひつぐうほいうり・ほふかうるかしとひしうと河ふ

引被きて・産御改名ふるしとといる皆えぐこし・

そぞつき　はのもう　傳の形し・つきは新つきはつきれのつきし

うもぞうこうるも　曰　侍ちふ・ちやもるるといふこし・ほ先皆ぐうり・又

河海り・ひとうを人をうぐ人よりうぐ人よりるもうほ・ほなむ人しうて・宗

神ふふ・ふづく人うりるうを人いるしといるも皆えぐこし・うほはうは

べの風流ちき・ぶさきぐちて・実ぶき女のしるうを人し・

うふりうき人のてうぐ　曰　うるうきはてうぐうるて・人へうう

らど、人のうれつきてうとくいふこゝ侍ふ。うつきくとそ
て善人しといてはふ。又けてうぞ。花ちふ香童の名葉名
などしとうもいぐ。行く好ぐ。さてはいふべきふわうび。又けしもとへ
を人の本意ふなるべき人はきとうるほもうまぐりそとふうあ
らど。うぐらとハ寒ある女のとへうをや。
ちみうぐ 日 彩色をるとふ對へうぐ絵とかくうぐいつるる月し。
古ハ絵をうぐて彩色をバべちふ他人(コトヒト)よをとるとうまくふ二つふ
ふて墨(スミガキ)をつうり絵くいてうつうりをとハ彩色をるをいふし景絵
彩色絵といふとふうぐ。法麿もしふこのごうは上ふちめふ。ふ校
侍ひのりかどを考てぐうりをつうまくせだやとうると。

行海ふつうりをとハ墨をちぐいふ保氏のかくとしふ
絵を彼事ふ色ぐくせだやとしとうる説よりく。毒花如流の説を。
ものとしう侍ふふも彩色ハまぐうるを。墨絵ちるをとふ
ふをかるうぐとそとにてハ此段のとうぐくをくかるし。
侍ぎくふ 日 けをふかくふいふ何を加へてんはべく。
をくよかうくぬ山の言ぐ 十五のひく 嶮岨ちくぬしといふ侍ふ。
行海ふ健(スミカ)くかく河ふをぎかくぬ山とうる。みるうく。をとふ嶮
岨ちくぬ山をなふいふを嶮岨ちる山を。絵ふかくふ。言ぐ侍をて。ををと
きぐ。ちぐくうかるこを。ををふくきちし。
おきてなぐ侍ちん 日 けをもぐ。ふ文ちうちかく。絵ちぐ。いきちひ

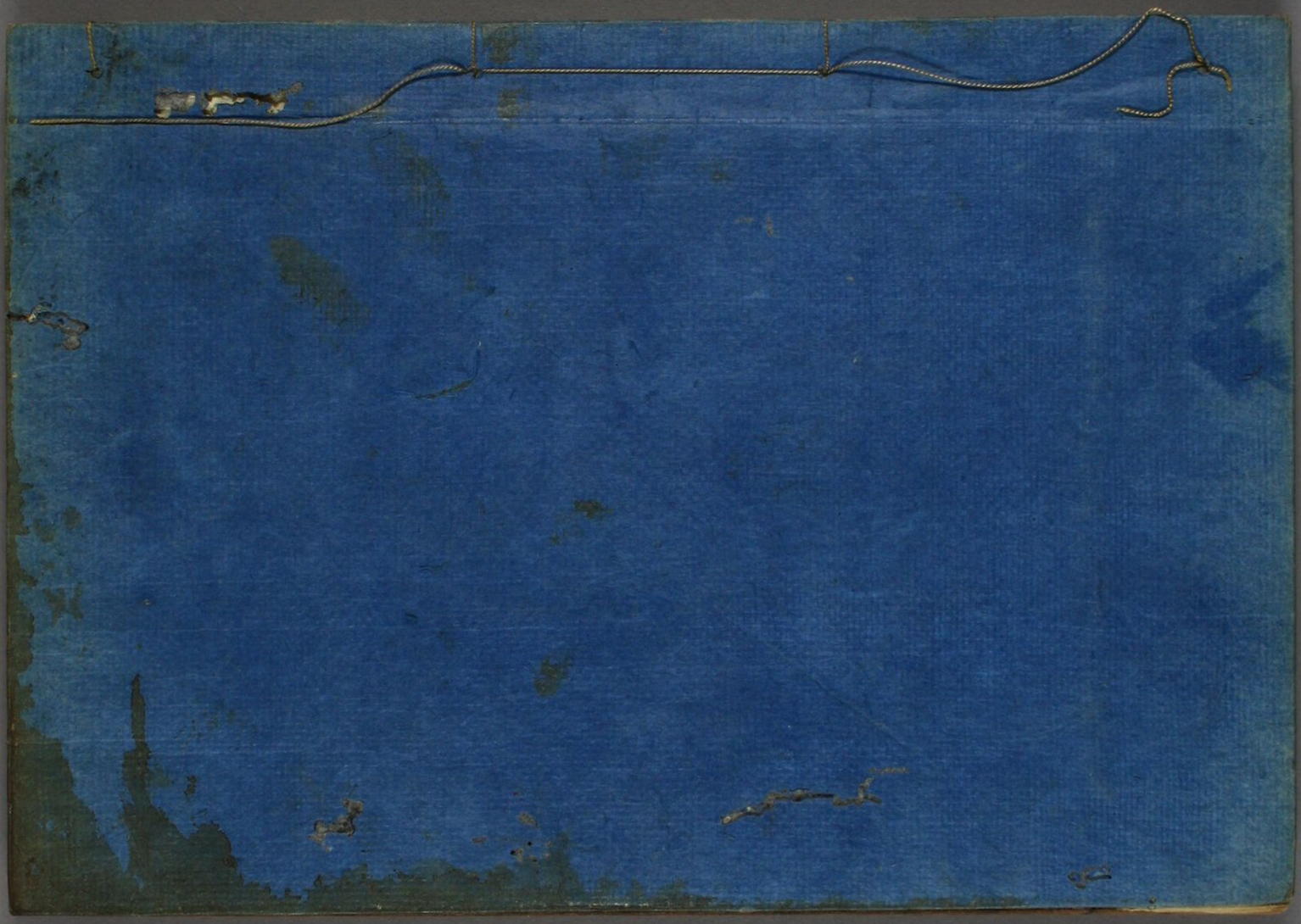
ふるかくをしかくをしつふるに加へるべし。

性ぶちあるしらるる　日　こゝとハ上件の三つのこゝろへをたゞしていもし三つ

のこゝろへなるほどこゝろあて。女の。きゝ況ぞやる。うたべの好きをと。寒好

ふるこのこゝろへなり。ほふその寒好る方のしもこゝへを本書しるべき女乃

こゝへあどけるふことゞり。又宗祇法ふ。源氏ゟ以中ねる。云をもれ

つゝそちるふべきこゝろいつもどゝさるこゝとハ好し。ふるふ志ひろ。かゝる書

のこゝろ好へ。そくこゝるふしもり。好ものゝ人の。うちぎき好きゝせしう。